

令和5年度 第5回 富谷市協働のまちづくり推進審議会 会議録

日 時：令和6年2月8日（木） 15時30分～16時55分

場 所：富谷市学校給食センター 研修室

参加者：富谷市協働のまちづくり推進審議会 出席委員9名 欠席委員1名

：富谷市 1名

：事務局 5名

1 開会（司会：市民協働課 課長）

2 会長挨拶

皆さんこんにちは。本日もお忙しいところお集まりいただきまして、ありがとうございます。皆さんには本当にこの審議会において熱いご意見をたくさん出していただき、担当課の方でもお手伝いいただきまして、また市長にも温かく見守っていただきありがとうございました。

こういった市民の活動は、やはり皆さんが納得しないと作っても意味がないと私は思っております。他の自治体にあるようなものを作るのはやめようということで、皆さんで一言ずつ言葉を作って、富谷らしいものになってきたかと思えます。そういう意味では、「輪づくりのために」というこの一言に集約するのかなと感じました。

そういった中で、ではこの輪づくりのために必要なことはどういうことか、ということで箇条書きにしていきましたが、これも決して難しく書くのではなくて、誰が見ても分かるように、簡潔に書きましようということで、1枚もののペーパーという形になりましたが、本当に皆さんの熱い想いが詰まったものができたのではないかと思います。

今日はこれを確認する会になります。重要なのはこの輪づくりを実現していくことだと思いますので、引き続き忌憚のないご意見の程よろしくお願いいたします。

3 市長挨拶

本日は大変お忙しいところ、令和5年度第5回富谷市協働のまちづくり推進審議会にご出席いただきましてありがとうございます。そして日頃より皆様には市民活動、市民協働等の面において、それぞれのお立場で中心的な役割を担っていただき、改めて心から感謝申し上げます。

本審議会につきましては、令和2年度に協働のガイドラインの策定、令和4年度には公益的な活動の支援に関する提言について、答申をいただいたところでございます。そして今年度は更に具体的な支援の在り方についてということで、6月に諮問させていただき、今日を含めて5回に渡り、それぞれのお立場で日頃の活動を通して感じられていること等を含め、富谷らしさということ念頭に置きながら議論を進めていただき、本当にありがとうございます。そして、佐々木会長には中心的な役割、取りまとめにご尽力いただきまして、本当にありがとうございます。

本来であれば今日答申をいただく予定でございましたが、もう少し時間を掛けてしっかりと仕上げたいということでご意見をいただきまして、私もこういったものは、年度中に必ず答申をいただかなければいけないとするのではなく、これまで議論していただいていた皆様は納得のいく形で答申をいただいたほうが、私どもといたしましても大変ありがたいと思っております。最終的には新年度に掛かるようになるかと思えますが、今日の議論をしっかりと踏まえ、最終的な答申の取りまとめをいただければと思っております。

いつもお話しさせていただいておりますが、富谷がなぜ様々な自治体評価ランキングで東北

第1位、宮城県第1位など連続して高い評価をいただいているのかと言いますと、私は本当に市民力の高さが理由だと思っております。そして、市民の公益的な活動への支援方針はその市民力を更に高めていくものになるかと思っておりますので、限られた時間ではございますが、どうか本日も活発なご議論をいただければと思います。

どうぞよろしくお願い申し上げます。

4 審議事項

市民の公益的な活動への支援方針について

(佐々木会長)

それでは、審議に入る前に委員の皆様にお諮りいたします。会議の傍聴及び富谷市情報公開条例に基づく開示請求があった場合の本審議会と会議の資料及び会議録の公開につきまして、ご了解をいただけますでしょうか。

※「異議なし」の声あり

それでは委員の皆様からご了解をいただきましたので、会議の傍聴及び会議録等の開示請求があった場合は公開することといたします。ただし、個人に関する情報等が含まれる場合は、富谷市情報公開条例第7条に基づき、不開示とすることを申し添えます。

それでは本日の傍聴人について、事務局から報告をお願いします。

(事務局 坂爪課長)

傍聴の申し込みはございません。

(佐々木会長)

それでは審議会の途中で傍聴希望があった場合、傍聴を許可することといたします。

また、本審議会の会議資料及び会議録につきましては、委員皆様に内容を確認いただきました後に公開させていただきますので、ご了承願います。

なお、個人に関する情報等が含まれる場合は、富谷市情報公開条例第7条に基づき不開示とすることを申し添えます。

それでは審議に入ります。

今日は公益的な活動への支援ということについて、議題としていきたいと思っております。

それでは、事務局より資料の説明をお願いします。

(事務局 瀧田課長補佐)

それでは、私から資料の内容について説明申し上げます。

市民の公益的な活動への具体的な支援として、第4回の審議会において委員の皆さまよりご意見をいただき、改めて調製したものが資料1、意見の反映状況を資料1と対照させたものが参考資料1となっております。資料1において赤字で表示している箇所が、今回加筆・修正した箇所となります。

資料1と参考資料1を併せて参照願います。

これまで4回、協働のまちづくり推進審議会において委員の皆様からいただいたご意見、「わくわく つながる わたしたちのまちづくり -富谷の協働ガイドライン-」及び昨年度の支援方針答申の文言を反映したものとなっております。

タイトル「わくわく つながる わたしたちのまちづくり」のサブタイトルとして、「市民の

公益的な活動における富谷市らしい取り組みについて」としておりましたが、佐々木会長、村上委員、佐藤政悦委員より市民同士や市役所内の各セクションのつながりについてのご意見がございましたので、「「輪づくり」のために」との文言を追加しております。

2段落1行目後段の「多様なセクター」としてあります部分につきまして、佐藤怜美委員より具体的な表記があったほうがいろいろな人に伝わりやすいとのご意見がございましたので、括弧書きで「公益的な活動を行う市民活動団体や公益法人、事業者など」との文言を追記しております。

次に、1ページ目の下段に協働のイメージを掲載しておりますが、このイメージ図につきましては佐々木会長、北野澤委員より市民は市民、市は市、多様なセクターは多様なセクターでそれぞれ別個に取り組んでいくのではなくて、この3つはあくまでつながっているものであることを図で表す必要があるとのご意見があったことから、協働のガイドラインに掲載している「とみやインパクト」をベースにそれぞれの実施主体が連携協働・共創し、市民力の向上を成していく様子を表しています。また、掲載場所についても平岡委員よりイメージ図の後に「市民が取り組むこと」、「市が取り組むこと」と展開していった方が分かりやすいとのご意見がございましたので、「市民の公益的な活動における多様な連携」といたしまして、協働のイメージ図を実施主体毎の取り組むべき事項の前に配置しております。

続いて2ページ目になります。

「輪づくりのために、それぞれの実施主体が取り組むこと」として、以降の部分に実施主体別に具体的な取り組むべき事項を掲載しておりますが、1ページ中段に掲載しております「整備の実現を目指すこと」に掲げております3点について、佐伯委員より各々の取り組むべき事項として振り分けるほうが良いとのご意見がございましたので事業主体毎に分けて再度掲載しております。

また、実施主体毎の取り組む事項につきましても佐々木会長、増田委員、曾根委員よりご意見がございましたので、掲載する事項と掲載箇所を入れ替えを行っております。

次に、各実施主体毎に委員の皆様からいただいたご意見を基に文言の整理をおこなっている部分について説明申し上げます。

はじめに、「市民が取り組むこと」といたしまして、増田委員、日諸委員、曾根委員よりご意見がございましたので、「地域の課題に向き合い地域をさらに良くしたい人、知識や経験を活かしサポートしたい人など、世代や立場を超えた多様な人々がそれぞれに、又は互いに力を合わせること(市民力向上)」としております。

次に「市が取り組むこと」について、3項目目「活動している個人・団体についての紙媒体、電子媒体等による情報発信」については、佐々木会長・日諸委員より、世代にあわせた情報発信の必要性についてご意見がございましたので、様々なツールを活用した情報発信について掲げております。

4項目目「活動しようとしている人、すでに活動をしている人・団体等の相談窓口の運営やコーディネート」については、平岡委員、佐藤政悦委員より、人や団体のつながりについてご意見がございましたので、つながりの支援について掲げております。

5項目目「活動にあたり有益な講座やイベントの開催、楽しくつながり広がる「輪づくり」の交流」については、曾根委員より、どのようなものか分かりにくいとのご意見がございましたので、具体的な表現となるよう修正いたしました。

最後の項目「市役所内における協働施策関係部署との連携」については、佐々木会長、佐藤政悦委員、村上委員より、何か活動をする際に市役所の複数の課にまたがるような内容もある、市民同士のつながりも必要だが、その土台となる市のつながりも見えると良いとのご意見がございましたので、協働施策関係部署との連携について掲げております。

最後に、「協働して取り組むこと」といたしまして「市民と市、多様なセクターとのつなが

りや多層的なコーディネート強化」としております。

内容や見せ方、表現の仕方やイメージ図などにつきまして、様々な視点からご意見を頂戴できればと存じます。どうぞよろしく願いいたします。

(佐々木会長)

ありがとうございました。

先ほど市長のお話しにもありましたが、当初の予定では今日、答申ということになっていたのですが、この間に、やはりプロセスをきちんとして、皆さんが納得いくまで議論しましょうということで、計画変更となりました。

本来であれば、事務局案を少し修正して終えるようなものなのかもしれませんが、当審議会においては、事務局案はあくまでたたき台として、内容を一新しながら進めてきました。また、一般的にはパブリックコメントで一気に意見を募る場合が多いのですが、実際のところ、その方法ではなかなか市民の意見が集まらないということで、ミニ・パブリックスという形で、市民活動交流会ととみやわくわくミーティングをそれぞれ2回ずつ開催しました。結果として充実した訳ですが、やはり皆さんで内容の最終確認をしていただいた上で、答申をした方が良いと思いますので、今日は基本的には内容の確認ということになってくるかと思います。

今、事務局より資料の説明をいただきましたが、私の方からも再度確認していきたいと思えます。

やはり、この「輪づくり」という表現ですね、これは村上委員のひらめきから生まれた言葉だと私は記憶しているのですが、村上委員の言葉の中で「輪づくり」というのは何回も出てきていますし、皆さんもそれに共感されて、タイトルにも入れてきちんと明示していこうということになったかと思えます。

そして、「市民、市及び多様なセクター」の部分も加筆していただいて、非常に読みやすくなっているかと思えます。ただ、文頭の「この取り組みも」の「この」が何に掛かるのか少しわかりづらいので、おそらく「以下に示す取り組みも」という意味だとは思いますが、この文言は少し修正していければと思います。

その下の波線の部分は特段強調されずに書かれていましたが、強く出した方が良いのではないかとということで太字で書いていただきました。

逆に、その下の「整備の実現を目指すこと」については、これまで太字で書いていましたが、無理な強調をせずにはずで囲うような形で分かりやすくしていただきました。

一方で、ここで言っていることは具体的にどういうことなのかということで、協働のイメージ図を作っていただきましたが、社会福祉協議会だけ略称で書かれているので修正した方が良いでしょう感じます。他にも団体の名称が入っていますので、指摘事項等があればご意見いただければと思いますが、やはり画にすることで理解力が高まりますので、形自体はこれで良いのではないかと思います。

裏面ですが、市民の取り組みがあった上で、それを市が支え、そして一緒に取り組むということで、前回順番を変えてもらいました。

また、「市民または市、市民と市が協働して」という部分は、どちらを先に書くべきかというところでよく議論に上がるのですが、こういった形で整理をしていただきました。

「市民が取り組むこと」の部分には、市長も皆さんの市民力がこのまちの土台になるということを最近強調しておりまして、私もまさにそのとおりでございまして、括弧書きで市民力向上という文言を追記していただいています。

「市が取り組むこと」の部分では、ネットワーク化や中間支援など、情報の接続がとても重要だということで、そういった内容を上の方に持ってきていただきました。

その後の「輪づくり」というのは、最近オンライン上でのマッチングサービス等もいろいろ

なもので使われていますが、ここでイメージしているのはそうではなくて、基本的には場の問題ですので、「交流会」といった文言も加えていただきました。

他には、既存の公民館を有効に使うべきではないかという意見がほぼ全員から出ていたが、「（仮称）市民センター化」という表現を使ってここで明記しております。例えば仙台市でも公民館を全て市民センターに変えていった訳ですが、こういう風を書くイメージが付きやすくなるかと思えます。しかしながら、あまり書き過ぎても逆によくわからなくなるので、これまで公民館として使われてきたものを市民センター化し環境整備していくということで、追記していただきました。ただ、ここで言われているのは既存の市民センター化というだけではなく、「市民の輪づくりセンター」のようなイメージかと思えますので、具体的に支援強化のために何ができるかと言うことで、まず見えてくるものとして情報コーナーを作るとか、パンフレットラックを置くとか、その辺を書けていただきました。

また、市役所内における協働施策関係部署との連携ですが、これが結構重要だということが言われております。行政は縦割りとよく言われていまして、これは日本全国どこでもそうなのですが、その縦割りの中でも調整できるところを強化していくということ、市の方でも努力して欲しいという強い意見が出ていましたので、ここに明記していただきました。

そして最後に「協働して取り組むこと」として、ずっと中間支援に関する意見も出ておりましたので、そこを一緒に考えていきたいと思いますということを書けていただいております。

今、富谷市内の町内会については事例集を作っている最中ですが、やはり何らかの紙媒体、紙媒体と言ってもネットに載せればそのままデジタル媒体にもなりますので、そういったものが今後作られていくと、協働して取り組むことがより具体的にイメージできてくるのではないかと思います。

ということで、論点整理というよりは私個人の感想もかなり入ってしまいましたが、これまでの流れを振り返らせていただきました。内容確認の会とは言いましたが、答申の時期は既に延ばしておりますので、追記も大歓迎です。新たなアイデア等もありましたら、併せてよろしく願います。

（北野澤委員）

何点か表現方法のところで気になる部分がありました。

1点目は、「とみやインパクト」を参考に作っていただいた図表の「これから活動しようとしている個人・団体」のところ、「とみやインパクト」ではこの表題が「市民」となっているのですが、他のところにも全部表題が付いているので、それを引用し「市民・これから活動しようとしている個人・団体」といった形にしたら良いのではないかと思います。

それと、「市民活動団体」から始まる部分にも「・」を付けた方が他と統一されるかと思えます。

その下の「公益活動に関わる事業者」は、ここも「とみやインパクト」で言えば「事業者」というような形に入っていると思いますので、そのようにするとこの一つ一つの項目がそれぞれ同じレベルのものになってくるのかなと思います。

あともう1点、一般的にABCと3つの事柄を併記する場合、「A、BまたはC」とか「A、B及びC」のような表現を使うかと思えます。資料のおもて面の「市民、市及び多様なセクター」という表現は、そういった一般的な表記の仕方をしているので普通に受け入れられるのですが、裏面の「市民または市、市民と市」という書き方に違和感を覚えたので、何か意図があってこのようにしているのか教えていただきたいです。

(佐々木会長)

ありがとうございます。

確かに、北野澤さんがおっしゃるとおり「これから活動しようとしている個人・団体」という表現は修正が少し必要だと思います。「これから」としてしまうと新規の個人・団体に限定されてしまうので、「新たな活動をしようとしている」として、これまでの活動とは違った新たなものに挑戦する既存の個人・団体も包含できるようにした方が良いかと思います。

また、「市民または市、市民と市」のような表現についてですが、これには市民協働あるいは市民活動特有の難しさがありまして、例えば仙台市でも「市民」をどう定義するかということで、提案が通らなかったことがあるくらい、実はセンシティブなところなのです。なので、確かに表記方法の原則からは外れるのですが、市と市民のどちらが上でどちらが下かということにならないよう、こういった表現で書いていただいております。下にある「市民と市、多様なセクターとの」という部分も同様の理由ですので、その辺は再度確認していきたいと思っております。

(増田委員)

私はいろんな会議に出ているのですが、予定までに答申できないというのは初めてのことで、自分もいろいろ言っておきながら申し訳ないのですが、でもそれが素晴らしいなと思っています。それを受け入れていただいたからには、とことん良いものしなければいけないと感じています。

おもて面の、今回太字にさせていただいた波線の3行が本当に素晴らしくて、これに尽きると思うのですが、ではこれに裏面の内容が対応しているかと考えたときに、私は県の会議等にも出ているんですけども、今は主体的にすごく活発な活動をする人ばかりを注目をするという流れではなくなってきたと思います。例えば、何かにつまずいてしまって、今は活動できていないけれども、その経験を若者に話すことで役に立てるといようなこともあるので、太字の3行はとても良いのですが、裏面は何か積極的に活動する人向けになっているところがあるような気がするんです。それはそれで必要なのですが、例えば「市民が取り組むこと」のところ、本当に些細なことでも地域づくりの一步になるんだということが分かるものがあると良いのかなと思います。硬い言葉で書いてもなかなか頭に入ってこないもので、前段として本当に些細なことでも良いんだと思えるような文言があれば、全員に「我が事」と思ってもらえて良いのではないかと感じました。

それと、「協働して取り組むこと」が1行だけなのは少なすぎるように思います。例えば、お互いの情報を共有しつつ、自分たちが主体でやるには重いけれど、部分的に関われる部分は一緒にやりましょうというような、軽やかなつながりを持てると、もう少しここが本当に実現可能なものになっていくのかなと感じました。

(佐々木会長)

「協働して取り組むこと」の内容が少し薄いのは、これまでの議論が足りなかったのだと思います。逆におもて面は整ってきていて、内容も良いんじゃないかという話を皆さんされているので、裏面をもう少し、というところだと思います。「市民が取り組むこと」と「市が取り組むこと」はもう出尽くしている感じがするので、そういったところで今いただいたご意見はまさに「協働して取り組むこと」に入れると良いのではないと思いました。特に「市民が取り組むこと」、「市が取り組むこと」は具体的にイメージしやすいと思うのですが、「協働して取り組むこと」は、むしろ漠然としたような書きぶりでも良いのかなと思います。ご意見を聞いて、なるほどと思ひまして、例えば今の3つ、自分が我が事と思えるような取り組みが推進されるような雰囲気作りを強化するとか、多様な市民活動、あるいは地域活動を尊重する

雰囲気醸成、そしてお互いの情報を共有して軽やかにつながりを持てるような。私も今、すぐには言葉を作り切れませんが、「協働して取り組むこと」は多少ぼんやりしても良いと思いますので、硬い文言ではなく、あえて理念に近いことをそこに入れていくと良いかと思います。「協働して取り組むこと」のところが1行というのは私も少し足りないなと思いましたが、波線の3行がすごく良いので、それに対応する形で今挙げたものを反映していけば良いのかなと個人的に思いました。

(北野澤委員)

今のお話しに補足して、先般、食育会議に出席した際に、おじいちゃん、おばあちゃんも交えて郷土料理を作ろうという意見が出たのですが、こういった世代間交流のみならず、団地部と農村部の交流ということもあるかと思えます。また食育とまちづくりの部分も互いに連携し合えば更に話が広がっていくのではかということも、その際話題に上りました。

(佐々木会長)

そういった意味では今年度、市民活動交流会においても都市と農村の交流をテーマに開催しましたので、今キーワードでいただいた、都市部と農村部、世代間、そして市役所内の部門間の交流ということも含めて、「協働して取り組むこと」にしっかり書き込んでいくと良いと思います。

世代間交流というと、どこかの年齢層とまた別の年齢層に対象が限定されてしまうので、最近「多世代交流」という言葉が使われています。やはり協働に関連する言葉というのは定義しづらいものが多くて、なかなか日本語で表現するのは難しいところがあるのですが、はっきりとは書けなくとも、皆で楽しみながら協働して文言を作っていくことが大事ですので、今のキーワードを3つくらいにまとめて書き込んでいければと思います。

(日諸委員)

テーマの「輪づくり」というところで、本当に良くまとまったと思います。今後の輪づくりがどんなものになっていくのか、わくわくを感じられるような中身だと思のですが、これらを実現していくためには、市の方も含めて、本当にそれぞれの意識の持ち方が大事なんだと思います。本当に良い内容だと思うので、地域の人やそれに関わる人等も巻き込んで、皆に期待される、そういう組織の一部になっていければ良いと思いました。

そして、皆さんのプラスアルファの発言もまた素晴らしくて、完成形に近づいてきて、本当に実現していけば良いと感じます。

(佐々木会長)

やはりソフト面は可視化できない部分があると思いますので、それをどう実現するかを市民の皆さんが分かるよう、進捗度等も含め内容を可視化して伝えるということは、次の課題になってくると思います。

一方で、市民交流会でも日諸委員には講師をお願いして、実際に活動されている現場をご紹介いただきましたが、そういった可視化できる部分を強化していくことが重要なのだと思います。

(平岡委員)

「市が取り組むこと」に「身近な施設を有効活用する為に必要な環境の整備、公民館の(仮称)市民センター化」とありますが、町内会館もどの地域にもあるので、入れていただくと良いかと思えます。

そして、最後に「市役所内における協働施策関係部署との連携」と追加していただいておりますが、私がこれまでいろいろな審議会に出席して感じているのが、文面では連携と掲げられているのですが、本当に連携しているのかということが分かりづらいことがあります。部署を特定はしなくとも、本当に連携できる場所は連携していった方が良いのかなと思いました。その2点だけで、あとは本当に良くまとまっていますし、これで良いのかなと思います。

(佐々木会長)

場という意味では、公民館だけではなく町内会館も重要なので、公民館の市民センター化と併せて、町内会館も活用促進されるようなことを入れておくの良いかと思います。

「市役所内における協働施策関係部署との連携」のところは、先程、日諸委員からも意識の持ち方というような話がありましたが、確かに連携とは言ってもなかなか難しいところもあると思います。協働というのは全ての部署が関わるので、要は市役所内全体における協働の意識の向上ということになると思うのですが、改めて意識を向上していただく、「意識の向上と連携の強化」のように書いていただくと良いのではないかと思います。

日諸委員からお話いただいた内容は、ここに入れるということでは無かったと思いますけれども、ここに使わせていただけると平岡委員がおっしゃったことに近いのではないかと思います。

(日諸委員)

分からない人に何かヒントをつなげてあげるような役割を市役所にはしてもらえたらと思います。

(佐々木会長)

おっしゃるとおり、答えを言わなければいけないというと、やはり少々逃げたくなるんですよね。誰が言ったのかと、責任問題になるということのも気持ちは分かりますので、そういう意味では、方向性を示すとか、そのつながりのヒントを示す。意識の持ち方としても、確固たる答えを出しなさいということではなくて、一緒に考えると、それはすごく重要なことですし、そうやってほしいですね。

(佐藤怜美委員)

全体的に見て、最初の資料から本当に簡潔になって分かりやすくなったという印象で、私はそこまで特に気になるところはなかったです。今皆さんの話を聞いていて思ったところが、1ページ目の内容はすごく素晴らしくて、太字になっている部分が一番大事なところだというのが分かりやすく表現されているのですが、2ページ目の内容がすごく積極的な活動をしている人向けだというのは、確かにそうだと思います。

1ページ目の「気軽にいろいろな情報に触れ」や、「最初の一步を踏み出しやすくするために」、「楽しくつながり」という文言を見ると、やはり2ページ目、「市民が取り組むこと」の最初に「地域の課題に向き合い」という文言が来てしまっているの、これ自体は入っても良いと思うのですが、文章の入れ替え等はした方が良いのではないかと感じました。表題が「わくわく つながる わたしたちのまちづくり」で、日諸委員もおっしゃっていましたが、やはりここが全てかなと思うので、そういったニュアンスのものをメインにしても良いのではないかなと感じました。

(佐々木会長)

やはり今回意見が集中しているのは、裏面の内容なんですよ。裏面の「(市民または市、市民と市が協働して)」という書き出しは20年前の定義で、言ってしまえばもう古い話ですので、もうこの2行は書き換えた方が良いのかもしれませんが。都市部と農村部の交流や世代、部門といったものを超えて、富谷の多様な人々がつながりやすいように取り組むこと、のような形で、目指すべきところと合うようにした方が良いと思います。北野澤委員からもこの文言について意見をいただきましたが、皆さんも少し引っ掛かりを感じられているのではと思いますので、増田委員の受け売りになってしまいますが、積極的に活動している人だけではなくて、その他の人も包含できるような形ですね。そういう意味では今、ダイバーシティやインクルージョンという言葉がありますけど、それを出してしまうとまた少し富谷らしさというところが無くなってきますので、そこを皆さんがじっくりくる言葉に変えて、書き出しを改めた方が良いのかなと思いました。

そして、「地域の課題に向き合い」という部分は以前にも議論しているのですが、やはり、地域の皆さんがまちづくりと向き合う動機というのは、地域や行政の課題を解決するのではなくて、自分たちの住むまちをより良くしたい、それも次世代を念頭にするんだと言って定義を考えたんですよ。それをもう一度思い出して、「課題」という文言はとってしまって良いのではないかと思います。

言葉はガイドラインの文言を使っていきたいと思います。

(佐伯委員)

最初にこの資料を受け取ったときに、とても良くなったなというのが初めに感じたことです。

ですが、裏面の「市民が取り組むこと」という、この言い回しに少し違和感を覚えてました。皆さんがおっしゃるようにやさしい感じで、楽しく一步を踏み出すのであれば、例えばですが「市民が取り組めること」のような、積極的にやりたい人が取り組むんだという感じが前面に出るのではなく、少しやさしい表現にしていくと良いのかなと思います。「市が取り組むこと」というのは、市の皆さんが取り組んでくださるんだということが分かるので、この表現でも良いと思うのですが、市民の方が一步踏み出すための文章としては少し引っ掛かりを感じました。

皆さんの話を聞いていて少し気付かされたところなんですけど、例えばこういう風にやるとこういった良いことがあって、こんな効果もたらされるんですよというような例を、この中に入れていくともっと良くなると思います。日諸委員が前回おっしゃった「輪づくりから居場所が生まれて、「富谷が第二の実家です」と思ってもらえるようなまちづくりにつながっていく」というお話がとても印象に残っていて、そういうようなことを少しやさしい雰囲気に入れていく、「こんな風にやっています」というような例があると、入りやすいのかなと感じました。

(佐々木会長)

そういった引っ掛かりを感じる部分は言っていたらととても助かりますし、令和2年度に協働のガイドラインを作った際にも、似たような議論がありました。初めは「ガイドライン」ではなく「協働のルール」という名称だったのですが、「ルール」というのは違うのではないかと。市からこうやいなさいと言われてるように聞こえるし、規制されるのもおかしいという意見があり、ガイドを示すという方向にシフトチェンジしたんです。そういった意味では「市民が取り組むこと」というのも、何となく行政の方で「これをやってください」と指示されていると捉えられかねないところがありますので、「市民が取り組めること」という具体

案をいただきましたが、それで良いのではないかと思います。

「協働して取り組むこと」も「協働して取り組めることに」変えて、「市が取り組むこと」は市の決意を感じるということでしたので、それはそれで良いのかと思います。

そして、もう1つ意見のあった例を示すということは、私ももうずっと言ってることなので、ここで盛り込むのは難しいと思うんですけど、やはり事例集みたいなものをいずれは作っていかないと、イメージが湧かないと思います。今年度は町内会事例集を作っていますが、そもそも富谷に住んでいる人でも、市内に町内会が何個あるのかすら分からない人って多いと思うんです。今回は町内会で作りますが、やはりイメージを付けていくというのは大事だと思いますので、ぜひ今の意見は、すぐさまここに反映することではないのですが、今後の活動にすごく参考になるとと思いますので、いずれやっていきましょう。

（村上委員）

よりコンパクトになったのは見て分かるのですが、読み込めば読み込むほど内容が良く分からなくなってきました。複雑になっていっているような気がしないでもなく、ただ、皆さんの意見を聞いていると簡潔になったのかなとも思ったりしています。

「わくわく つながる わたしたちのまちづくり」がスタートでしたが、その協働ということは市民と市と多様なセクターが皆で、共に作り上げるまちづくりという形なのかなと、自分の中で理解しています。市民協働課の皆さんがどうつなげて、輪づくりをしていってくれるんだろうという期待があって、そこに私たちが意見して、この、輪づくりというものを作り上げていく過程の審議会かなと思っていたので、「協働して取り組むこと」の内容はやはりもう少し増やしたいです。既に協働という形でやっているつもりで自分は活動していて、そこに足りないことはあるかもしれないのですが、互いに理解していったり、寄り添ったり、共に作り上げていく雰囲気づくりをしていって出来上がるものが、地域づくりの一部になっていくという風に感じています。

（佐々木会長）

裏面は昨年度に出した提言の具体策ということで、こういった形になっているんですが、村上委員がおっしゃったように、本来であれば輪づくりをどうするかというフローがあって、そのためにこれが必要だというロジックにすべきだという話なんですよね。ただ、「輪づくり」というテーマが途中から入ってきたのは想定外のことだったので、若干イレギュラーな順序にはなっていますが、恐らく裏面の最初の文言を、今の村上委員の話も入れながら変えていくのが一番良いと思います。しかし、輪づくりのフローを可視化するというのは結構重たいので、それは先程佐伯委員より意見が出た、具体例があった方が良いということとすごく近い話なので、次のステップで富谷の輪づくりをやっていくということで良いと思います。

そして、「市民または市、市民と市が協働して」というような文言にはあまりこだわらずに、むしろ皆で、どうやってわくわくやっていくかということが大事なところだと思います。

具体的なキーワードは増田委員のお話しにも散りばめられていましたし、あとは村上委員が代表されているSCRの「S」と「C」と「R」にそれぞれ込められている意味も、リード文を書く際にヒントになるとと思います。

（増田委員）

リード文をもう少し私達の思いがこもったものにすると、やはり市が取り組んでくださることはありがたいので、明記していただきたいという思いもあるんですが、人任せではなくて、そこに市民が取り組めることもあるので、その意図が伝わるようなリードがあるときれいにその下の内容に流れていくと思います。

それに、佐伯委員がおっしゃったように今は課題解決型ではなくて、こういうものが良いという夢を持って作り上げていく時代になってきているので、内容を今から変えていくのは難しいと思うのですが、「地域をさらに良くしたい」というリードと上手くつながるように、そして、「協働して取り組めること」の部分を分かりやすい言葉で充実させていくと、裏面がまとまっていくのかなと、今お話を聞いていて思いました。

（北野澤委員）

恐らく提言書の作り方としては、1ページ目が総論、2ページ目が各論で、各論にはそれなりのリード文を作って、各項目をより具体性のあるものに整理をしていくということが、皆さんの意見だと思います。それぞれおっしゃっていることをまとめると恐らく、そのようになってくると思うので、より具体的にどうしたら輪づくりができていくのかということが、より簡潔かつ、わくわくするような文章で持ってくることで、良いと思います。

（平岡委員）

「輪づくり」という言葉のイメージがすごく良いので、「市民が取り組めること」を「輪づくりのために市民が取り組めること」に変えるという方法もあるのかなと思います。そうすると、佐伯委員がおっしゃったようなやわらかい表現になるのかなと。思いつきで申し訳ないのですが、タイトルに入れた割には裏面に「輪づくり」というキーワードが出てこないで、くどくなければ「輪づくりのために市が取り組むこと」、「輪づくりのために協働して取り組めること」として前に持ってきた方がかえってインパクトが強くなるのかなと思います。

（佐々木会長）

おっしゃるとおりだと思います。この3つの取り組みで輪が全部つながるというイメージにもなりますし、輪づくりを徹底していきましょう。とても良いアイデアだと思います。

各項目の箇条書きの部分はこれとし、「協働して取り組めること」の内容を増やせば良いと思います。

（曽根委員）

皆さんがおっしゃったことが、本当にそのとおりだなと思っています。特に「市民が取り組むこと」を「市民が取り組めること」という風にすると、すごくイメージが変わるなと思いました。

私も、裏面の「地域の課題に向き合い」をとった方が良いと言おうと思っていたのですが、そこをとるだけでは結局「地域をさらに良くしたい人」から始まってしまうので、まだ積極的に活動する人向けという印象を受けると思います。なので、この頭に「もっと楽しく、自分たちが住みやすい地域を作るために」みたいな文言を一言入れても良いのかなという風に感じました。

あとは、「市が取り組むこと」の「楽しくつながり広がる「輪づくり」の交流会」は、「輪づくりのための交流会」とした方が良いのかなと思います。

その次のところで、「市民センター化」という言葉があるんですけど、公民館と市民センターとで何が違うのかと感じられた方は沢山いらっしゃると思うんですよね。「市民センター化」と一言で済ませてしまうと、伝わりきらないのではないかと感じています。佐々木会長は「市民の輪づくりセンター」のようなイメージだとおっしゃっていましたが、例えば「※」などで良いと思うので、「市民センター化」というのは具体的にどんなことなのかを分かりやすく、どこかに表示しても良いのかなと感じました。

(佐々木会長)

確かに「市民センター化」についてはもう少し説明があっても良いと思います。基本的にソフトの部分なので、可視化しにくいところなんですけれども、輪づくりを強化するために場の整備をするという意味合いだと思いますので、「※」で補足するか、あるいは文章をもう少し書き込むかしていただければと思います。

(平岡委員)

そもそも、公民館と市民センターとでは何が変わってくるのでしょうか。

(事務局 瀧田課長補佐)

現行の公民館は社会教育法に定められた社会教育施設となっております。市民センターとの違いは活用できる方が少し限られてくるという点にあります。従いまして、輪づくりのための交流の場の確保であったり、多様な活動をされている方々が市内には大勢いらっしゃるのです。そういった方々が活動しやすいような環境の整備をしていくというイメージで、このような表記をさせていただいております。

(平岡委員)

この資料だけではそこまで分からなかったのですが、むしろ公民館または町内会館とした方が良いのかなと思ったんですけど、そういうセンターを使う方もいらっしゃるということなんです。

(事務局 瀧田課長補佐)

公民館としていたこれまでは、使用できる方にある程度の制約があったので、輪づくりを広げるため、いろんな方が使えるようにということになります。

(北野澤委員)

町内会館は町内会が維持管理、運営を行っているのです。使用条件が町内会によって全く異なるんです。町内の住人だけしか使えなかったり、営利目的は駄目とか。私の住んでいた町内会は割とオープンでしたが厳しいところは本当に厳しいので、難しいですよ。

(増田委員)

かえって公民館なら公民館にした方が良くないのでしょうか。要するに各町内会毎に運営が任されているため、ここに盛り込むのは難しいということですよ。

(北野沢委員)

全ての町内会館の利用条件を一律にして、原則誰でも使えますという風にすれば入れても良いと思いますが、そもそも会則が違うんですよ。

(佐々木会長)

それぞれの会則が絡んできますし、町内会の意向もあると思いますので、そういう意味では今回は「公民館の（仮称）市民センター化」ということで良いと思います。ただ、私としては旧来の単なる市民センターにするというよりは、輪づくりを前面に押し出した「市民の輪づくりセンター」のようなイメージで、ただ単に法制度上の取り扱いを変えて、貸し出しの枠を広げるというだけにはしないということが、皆さんがおっしゃっていることだと思うんですよ。

(増田委員)

市民センター化とは関係ない話なのですが、前回の審議会で出た「輪づくりから居場所が生まれて、「富谷が第二の実家です」と思ってもらえるようなまちづくりにつながっていく」という言葉がとてもイメージとして分かりやすいと思うんです。富谷で生まれていなくても、ここが第二の故郷だと思ってもらえれば自然と意識が変わっていくと思うので、イメージが湧きやすいし、私たちが心打たれた言葉として、「輪づくり」ももちろん入れつつ、リードの部分に一人一人が「我がふるさとと思えるような活動にするために」とかそういった表現があると私には関係ないとならずに皆さんがスッと入っていけるかなと思います。

(佐々木会長)

上のところにも「わがまち」と強調して入れてもらいましたが、括弧を付けなくても、「一人一人がふるさとと思えるような」といった表現を入れて、リードに活かしていけると良いと思います。「自分たちが住んでよかった、住み続けたいと思える地域、「わがまち」を自分たちの手で作っていくことを意識しながら」と書いてありますが、やはり大事なことは繰り返す必要があると思うので、そのために以下を取り組みますと持っていきたいので、リードの部分は少し工夫していきたいと思います。

そして、公民館の（仮称）市民センター化のところについては、若干補足は必要かなと思いました。何のために市民センター化するのかという目的がはっきりした方が良いと思います。ただ、法制度上で単に貸す人を広げるといって少し誤解を招く可能性がありますので、やはり多様なセクターによる輪づくりを広げるためにということが伝わるような書きの方が良いかと思っています。良い面と逆にその弊害がある面も北野澤委員からご指摘いただきましたが、今回打ち出す取り組みの1つの大きなポイントになるかと思っていますので、良い面を強化するという意味で、なぜ今回ここに手を入れるのかしっかりと説明を入れていくということが大事かと思っています。

ということで、今回も休みなく議論を続けてしまいましたが、皆さんからしっかりご意見をいただけたかと思っています。最後、ある程度事務局にお任せいただく部分もあるかと思いますが、この1枚に皆さんの思いをきちんと詰め込んで、次のステップにつながるように進めていきたいと思っています。

今日は次のステップに向けた意見もすごく出ましたが、この支援案を作って終わりというものではありませんので、引き続きそれぞれにまた活動を展開していただくということになると思いますし、その際にはこういった活動をぜひ周知していただければと思います。

私の方からはこれで以上になりますが、当初のスケジュールではこのあとパブリックコメントということになっていましたが、冒頭でもお話ししましたとおり、ミニパブリックスという形で、市民活動交流会とわくわくミーティングを2回ずつ開催して参りましたので、パブリックコメントは改めて行わないということでプロセスを修正させていただきたいと思いますが、よろしいでしょうか。

※「異議なし」の声あり

それでは以上で本日の審議は全て終了いたします。

事務局におかれては、本日委員の皆さまから頂戴した意見を十分に考慮し、具体的な支援についてとりまとめていただければと思います。

それでは進行を事務局にお返しします。

(事務局 坂爪課長)

佐々木会長、委員の皆様、長時間のご審議ありがとうございました。
5. その他といたしまして事務局から連絡がございます。

(事務局 瀧田課長補佐)

本日の審議会の会議録につきまして、内容のご確認を今後お願いすることとなりますのでご承知いただきたいと思えます。

また、次回、第6回審議会につきましては新年度、5月頃の開催を予定しております。後日改めて日程調整の上、開催の通知を郵送申し上げますのでよろしくお願いいたします。

事務局からの連絡事項は以上となります。

(事務局 坂爪課長)

それでは閉会のあいさつを平岡会長職務代理者をお願いいたします。

(平岡会長職務代理者)

本日もたくさんの意見を出していただき、皆さんありがとうございました。

この10名、今日はお一人欠席されているので9名ですが、この10名の中で和気あいあいと輪づくりができたのかなと思えます。

事務局の皆さんには大変恐縮ですけれども、今日の意見をまた踏まえて、良いものをしっかりと作っていただきたいと思えますので、よろしくお願いいたします。

皆さん本当に今日はお疲れ様でした。

(事務局 坂爪課長)

以上をもちまして、令和5年度第5回富谷市協働のまちづくり推進審議会を終了させていただきます。本日は大変お疲れ様でした。